

近江のうた

～歌碑で巡る万葉集の旅～

元号「令和」の出典となった万葉集。その万葉集は現存する日本最古の歌集で、収録されている約4,500首のうち、滋賀県を背景に詠まれた和歌はおよそ108首あります。その中には額田王や柿本人麻呂などの広く知られた和歌も含まれており、近江の風景が人々の心に深く刻まれていたことがうかがえます。

ここでは、滋賀の情景を詠んだ和歌や、県内に数多くある歌碑の一部をご紹介します。万葉集ゆかりの地に立つ歌碑を巡り、いにしへの近江に思いをはせてみませんか？

何処にか われは宿らむ 高島の
勝野の原に この日暮れば (高島市)



旅なれば 夜中を指して 照る月の
高島山に 隠らく惜しも (高島市)



淡海(あふみ)の海(うみ) 夕波(ゆふなみ)千鳥(ちどり) 汝(な)が鳴(な)げば
情(こころ)もしの(に) 古(いにしへ)思(おも)ほゆ
場所／大津京シンボル緑地(大津市) 作者／柿本人麻呂
近江の海の夕波の上を群れ飛んでいる千鳥よ。お前が鳴くと、心もしのれて志賀の都の昔のことがしみじみと思われることよ。

大船(おほぶね)の 香取(かとり)の海(うみ)に 碇(いかり)おろし
如何(いか)なる人(ひと)か 物思(ものおも)はさらむ
場所／乙女が池畔(高島市) 作者／不明
(大船)香取の海に碇を下ろし、いかなる人が物思いをしないでいられようか。(どんな人でも恋の心には悩むものを)

伊香山(いかやま) 野辺(のへ)に咲きたる 萩(はぎ)見れば
君(きみ)が家(いへ)なる 尾花(おぼへ)し思(おも)ほゆ
場所／賤ヶ岳山頂(長浜市) 作者／笠笠村
伊香山の野辺に咲いている萩を見ると、あなたの家の尾花が思われる。



白真弓 斐太の細江の 菅鳥(か)の
妹に恋ふれか 眠を寝かねつる (彦根市)

鳴鳥(なまどり)の 息長川(おきなががは)は 絶(た)えぬとも
君(きみ)に語(かた)らぬ 言(こと)尽(つ)きめやも
場所／蛭子神社(米原市) 作者／馬史国入
たとえ息長川は絶えてしまおうとも、あなたにお話することはつきようか、つきよしな。

淡海路(あふみぢ)の 鳥籠(とこ)の山(やま)なる 不知哉川(いさやがは) 日(ひ)のころころは 恋(こ)ひつもあらむ
場所／JR彦根駅東口(彦根市) 作者／岡本天皇
近江道の鳥籠の山を流れる不知哉川の名のように、さあどつてでしょうか。このころは私を恋しく思っていてくささるでしょうか。



君(きみ)待つと わが恋(こ)ひをれば わが屋戸(やど)の
すだれ動(うご)かし 秋(あき)の風(かぜ)吹(ふ)く
場所／市神社(東近江市) 作者／額田王
あの人(天智天皇)のおいでを待つて、恋しく思っていると、私の家の簾を動かして秋風が吹いて来ることよ。

あかねさす 紫野(むらさきのの)行き 標野(しらの)行き
野守(のもり)は見(み)ずや 君(きみ)が袖(そで)振(ふ)る
場所／妹背の里(蒲生郡) 作者／額田王
紫菀の植えてある野を歩き、その標を張った野を歩きなされて、野守が見ているではありませんか。あなたが袖をお振りになっているのを。

白真弓(しらまゆみ) 石辺(いそべ)の山(やま)の 常磐(とこしは)なる
命(いのち)なれやも 恋(こ)ひつつをらむ
場所／石部駅前(湖南市) 作者／不明
石辺の山の常磐のように、永久に変わらぬ命であらうか、そうではないのだから、どつて恋しく思つてごめだぞ(命)なれやも(恋)ひつつをらむ。

雁(かり)がねの 寒(さむ)く鳴(な)きしゆ 水荃(みづきき)の
岡(おか)の葛葉(くずのは)は 色(いろ)づきにけり
場所／湖周道路沿い(近江八幡市) 作者／不明
雁が寒々と鳴いてから、水荃の岡の葛葉は色づいてきたことよ。

参考文献:『淡海万葉の世界』藤井五郎 著